

ニューズレター11月号

～ミッション2030～

第3回 福音ワークショップ

「福音を伝える工夫」

日時：11月4日（日）15：00～17：00、場所：信徒会館ヨセフホール

参加人数：92名（英語グループから16名、分かち合いグループ数21）

式次第：15：00～15：10 歌（テゼ「どんな暗闇も」）・挨拶・流れの説明

15：10～15：30 前回の振り返り・福音を伝えるためのヒント
（英 隆一朗神父）

15：30～15：35 グループ分け・分かち合いのルールの説明・
発表方法

15：35～16：05 分かち合い

① 自己紹介（名前と洗礼を受けた時期・これから受ける予定など）

② あなたの周りにいる人に、福音を伝えるには？具体的な自分の
体験例をあげて、分かち合う

③ グループで出た話題を、簡単で良いので簡条書きに＊用紙・ペン・板
目を配布

【配布した「福音を伝える工夫」A～Eについて分かち合い】

16：05～16：40 各グループで出た話題を共有するための時間
是非発表したいというグループより話題提供

16：40～17：00 コメント（英 隆一朗神父）

お知らせ・歌「どんな暗闇も」

【1】福音を伝える工夫（英 隆一朗神父）

前回の振り返りと、今回のワークショップの導入について話します。福音を伝えるということは今年一年間のテーマとしてやっていくことになっていて、ワークショップを積み重ねています。

福音を伝えるということは、いうまでもなく教会の使命であり、堅い言葉でいえば福音宣教するということは教会全体の課題でもあることは間違いありません。また、難しいテーマであることも確かです。

例えば、司教様も神父様にしろ皆さん宣教は大事なことでとよく言います。皆さんはあまりご存じでないと思いますが、東京教区はブロック制です。イグナチオ教会、神田教会、築地教会が一つのブロックになっています。ブロックの名前が宣教協力隊といい、宣教するための協力隊という名前がついています。宣教協力隊の中での

話し合いは、私が主任神父として2回会議がありました。宣教そのものについて話しあったことはありません。情報交換をするぐらいの場です。

皆さんも実感していると思いますが宣教することも難しくなっていることも事実です。特に先進諸国のアメリカ、ヨーロッパ、日本は非常に難しい状況になっているということは間違いではないと思います。

私はイエズス会の中高出身ですが、当時私よりも上の人は中高で洗礼を受ける人は多かったです。各学年で一年間に10人から20人が洗礼を受けていて不思議ではない時代でした。

私よりも下の人たちの時代になってくればくるほど、ミッションスクールでも洗礼を受ける人は、年に一人か二人位です。全校で一人か二人でもいれば良かったということになります。プロテスタントもたぶんそうでしょう。

カトリック、新宗教、神社、寺院も信徒数を減らしています。イグナチオ教会は、いまのところ、洗礼を受ける人も多く例外的に成功している教会といってもよいかもしれませんが、しかし本当に難しい時代になっています。そして難しいからこそ福音を伝えて行かなければならないのだと思います。

私の中高時代でも個人差があり、神父さんによっては洗礼を授ける人、そうでない人もいました。だから信者の中でも興味のある人そうでない人もいるのは当然だと思いますが、ワークショップに集まってくる人は興味があるからだと思います。

神父にも出来ることには限界があります。特に教会で働いている私は9割がここでの仕事です。ほとんどが信者の人たちとのお付き合いで、入門講座の時だけが求道者の人たちとの付き合いになります。

そして皆さん職業、国籍もバラバラです。皆さんは社会の中に明らかに遣わされています。そこで、どうするのか、工夫する以外に方法はないのです。

私は教会の中にいるので、教会にこられた方はお世話が出来ますが、教会の外に出て神父が何かをすることはなかなか難しいことで、皆さんと協力をしながらやらなければなりません。

今日のテーマは「福音を伝える工夫」を具体的に話し合っていくことです。ここでは前回話し合ったテーマに出たものをまとめたペーパーを参考に話したらどうでしょうか。話を分けるためにAからEに分類しました。(資料1参照)

(1) 【福音を伝える工夫】

※A 家族に伝えるために

- ・福音をまず家族にどう伝えたらいいのかですが、前回の話の中で自然に伝わったという人がいましたが、どういうふうに伝わったか、そのきっかけをもう一度分かち合って欲しいです。
- ・カトリックの家庭に生まれた人はこの中におられると思いますが少数だと思います。自分が信者になって家族も洗礼を受ける方は、わたしの印象では少数派で、それは恵まれています。
- ・小さな子どもにはカトリックの教えを素直に話すことが出来る。また、ある人は本をプレゼントすることを挙げていました。宗教的に面白い本をプレゼントすることはよいことだと思います。

- ・福音を伝える工夫は、スペイン語グループでも分かち合いをしています。スペインの方の意見では、自分はカトリックでパートナーは日本人で、なかなか洗礼を受けないので悩みがあるとのこと。いまの話合いでは、詳しくは聞かなかったのですが、料理を作って食べる集いをしたら教会には来るだろうということで、まずはそれを実践しようとスペイングループは考えています。これも一つの具体策の工夫です。その他どのような工夫があるか皆さんで考えてみて下さい。教会には来るがパートナー(夫)がどうしたら洗礼を受けるか、多くの人が悩んでいて簡単にはいかないようです。近いがゆえに難しいということ。
- ・もう一つは子どもの問題です。自分の子どもに幼児洗礼を受けさせたが、その後は教会から離れて教会へ行かなくなってしまった。どうしたらよいでしょうかと、日本のどの教会でも聞かれる話です。神父の私は子どもがいませんから聞かれても困るんですが…自分の子どもにうまく信仰を伝えられた人は、どういうきっかけで伝えられたか分かち合ってください。親が信者であるから子どもが自動的に熱心になるということはないようです。今の社会では特別なことをしないとダメなようですが、どうするかを含めて皆さんで分かち合ってください。

※B 職場など身近な人に伝えるために

- ・英語グループから出たのですが、職場の変ないざこざがあった時はかかわらないようにする。悪口を言い合っている時はかかわらないなどは非常に大切かも知れません。それもカトリック信者としての振る舞いの問題です。
- ・カトリックの葬儀を通してやはり何かメッセージが伝わると言うことも実際多いです。そのような時に、何か自分とか、自分の家族、身近な人が、参加している人に何か言うことです。自分の経験ではないのですが、結婚式に出て洗礼を受けた人はあまり聞いたことがありません。でも、葬儀を通して信者になったという人はあちらこちらで聞きます。だから葬儀を通してというのは大切かもしれません。
- ・職場など身近な人に対してですが、私が送別会の司会をした時に自分はカトリックであると表明し、信者であることを隠さずに言いました。
- ・前回の時、言ったことにより一時的に変に見られたと言う人もいましたが、それでもやはり言った方が長期的には良いと思います。飲み会などで話す機会があった時には、自分の信仰、体験を伝えてみる。また真面目に話す時があったら、やはり勇気をもって語ったらどうでしょうか。
- ・どこのグループか忘れましたが、何かある時にカードをプレゼントする、誕生カードとかクリスマスカードとか、その他ちょっと何かキリスト教メッセージを入れるとか、そうした小さなことでもいいのです。興味のある人にはクリスマスミサに誘うとか、ミサに同伴することも一人で出来る小さなことです。
- ・その人に苦しみがある時はやはり親身にかかわる。苦しんでいることを通して神様を求める人は絶対に多いのです。そういうことを通して何か工夫をすることです。宣教目的というよりも、世話をしながら、その人のために祈り、その人を大切に思っていることを伝えるのです。苦しんでいる人の苦しみが解決出来るように実際に祈ることです。このことは前回たくさん出たことですので皆さんで分かち合ってください。

※C 見知らぬ人に伝えるため

- ・見知らぬ人に伝えることは実際難しいことです。道端でとなるとなかなか難しい。
- ・コンビニのイトインで隣に食べている人に話しかけたという人がいました。日本人グループか英語グループか忘れましたが、そういうことが出来る人はそういう機会を通して何が出来るか話し合しましょう。
- ・新宗教が時々する布教方法ですが、新宿にある本屋の紀伊国屋で精神世界コーナーというコーナーががあって、必ず人がいて本を見てる人に、何気なく話かけ会員にするというグループがあります。あまりに会員にすると言う目的でやると怖いですが。隣にいる人に話かけることは難しいのですが、この話はここでは少ししか出ていませんでした。少し工夫を考えてみてはどうでしょうか。

※D 全体的な態度として

- ・宣教者は、自分自身が宣教するものだという意識を持つか持たないかが大きいですね。英語グループで出たものですが、宣教の気持ちで日本にきていると言う方がいました。そう言う気持ちが大事です。
- ・祈りは祈りに始まり祈りに終わる。祈りを深めることが大切。
- ・感謝と喜びにあふれた態度で生きる。救われた者として喜んで生きる。いつもしかめつつら、難しい顔をしていると…やはり喜びにあふれた生き方を日ごろから心がけていると、周りの人も影響を受けるものです。私は暗い顔をしていますけど…。
- ・人によって評価は違いますが、損得なしに人とかかわる心が大切です。特に会社だったらほとんど利害のかかわりになりがちですが。
- ・モノとヒトを大切に作る調和、エコロジー的、全てを大切にする気持ちが大切です。そう言う意味で周りから変わっているといわれる生き方、単に変人だというより、いい意味で変わっているという生き方が出来ればいいかも知れません。
- ・英語グループでしたか、対立している人の前ではへりくだるという方がいましたがこれができたら素晴らしいです。対立していると大体シャットアウトか陰悪なムードになりますから。そういう時こそへりくだることが出来たらよいですね。

※E 対話の際に

- ・押しつけすぎず、隠さず、しかも相手の話しを聴くように心がけたらどうでしょうか。
- ・カトリックの専門用語を使わないように話したほうが良いのではないかと意見がありましたが、どういう例で、どういう話し方をした時に上手くいったのか、具体例を出してもらえたら良いと思います。

(2) 【信仰を証しするエクササイズ】 (資料1参照)

最近読んだ本で、ジェムス・ブライアン・スミス著書のエクササイズⅢで日本語では「信仰を証しするエクササイズ」、英語では The Good And Beautiful Community で、良い本です。この本には信仰を証しするための一つのエクササイズが提案されています。

1. 祈る

まずお祈りをする。つまり、福音を伝える人と出会えるように、この人に会えたら良いと思う人と出会えるようにお祈りをする。その人がこの人だと分かったら、どこかでその人と出会えるように祈る。これはほとんどいつも直ぐに応えられる力強い祈りです。もし皆さんがこのように祈ることが出来るなら祈ると良いでしょう。神様は祈りに応える方です。

2. 観察する

その人だと分かった人を大事にする。その人を通して神様にどう関わったらいいかを祈りながら聴くことです。

3. 手を伸ばす

その人だと分かったら手を伸ばす、積極的に。コーヒと一緒に飲もうとか、ランチに誘うとか。既に知っている人だとしたら何かの機会に質問をしてみたらどうですか。

4. 聴く

その人の話しをよく聴く。よく聴くだけで愛を示していることになります。多くの人は自分の話しを聴いて欲しいと思っている。しかし現代では聴いてくれる人があまりいない。だから、聴き上手になることがその人を大切にしていることになります。

5. 結びつける

なかなか難しいことですが、何かその人が引っかかっていることが分かったらそのことを福音メッセージとどう繋げたらいいか考えていくことです。

6. 伝える

話してくれるようになったら自分の救いの物語とか、第1回目のワークショップの「福音とは何か」で分かち合った、自分にとっての福音の喜びとかメッセージを相手に語ることです。

7. 招く

ミサに招くとか。最初に行ったのが大きなミサならば、つぎは小グループの勉強会に招く。カレーの会とかボランティア活動に招く。

アメリカ人の場合、だいたい興味を持ってから洗礼をうけるまでにどのくらいかかるかですが、統計的には28ヶ月、2年半かかるのが普通です。

※信仰を証しするエクササイズ1から7の中で順番は関係なく、皆さんの体験の中で何かいい体験をしていれば、それを分かち合うといいと思います。私の入門講座は信者の方が講座に来ることは出来ませんが、求道者の方となら一緒に来ても良いと言ったら、案外連れて来られますね。興味はあるが一人だと来にくいようですが、友達と一緒にだと来て下さる。そういうことも工夫して見ると良いと思います。

(3) 【教皇フランシスコ「福音の喜び」】 (資料1参照)

洗礼を受けた全ての方が福音宣教者です。しかし福音宣教のために勉強しなくてもいい、普通の会話の中で自分の救いの体験を述べたらどうですかという内容です。

はじめに戻って ABCDE をよく考えて見て下さい。
A の家族にどう伝えたらいいか、どのように伝えたら、具体的にやったことがどううまくいったかなどを考えて下さい。
B の職場の人とか、身近な人に何か伝わったことはあるか、何か自分が伝えたことがあるか、何か自分に伝えられたものなどを考えて見て下さい。
C の見知らぬ人、もし経験があればということです。
DE は全体的なものとしてとらえて見て下さい。

【2】各グループからの分かち合いの内容発表

※A 家族に伝えるために

- 神はひとつ、神に祈る。
 - ・神は毛穴からも入る。
- トイレに教皇様の顔写真、カトリック新聞の切り抜きやみことばを張っておく。
 - ・トイレに日めくりのみことばカレンダーを置き毎日確認してめくる。
- 諦めることなく継続して祈ることは成就に繋がるので大切である。
 - ・信仰について話すにも必ずその人に相応しい人がいるので色々の人を探すことは大切である。
- 50年間の難病の姉に私の夫が教会に行って祈っているの、貴女は良くなると言ってくれたことが夫婦の絆を深めてくれた。
- 自分の信仰は守ること、子供には受洗させることを条件に結婚した。家庭のことは十分尽くし自分の日頃の生活行動が自然に主人に伝わり、42年目にして主人も洗礼を受けた。

※B 職場など身近な人に伝えるために

- 自分は人としてこうでありたいと実践していたら、クリスチャンではないかと聞かれ自信を持ってそうですと答えた。
- 同僚との昼食の時、今日は金曜日だから肉は食べないですねと言われ自然にクリスチャンであることが伝わって来ている。
- 葬儀の場で全てが終わるのではなく、希望があることの雰囲気を通して宣教の場になるのではないかと感じている。
 - ・普段の自然の行動で自分がクリスチャンであることを出していく。
- デーサービスで自分で作った星の王子様の紙芝居をやったところ喜ばれたが、いろいろの反応があった。(良いとも悪いとも)
- 聖書の集いに行くため仕事を早く切り上げると、同僚から聖書について聞かれ、興味を持たれていると思った。
 - ・仕事から日常的に死にかかわっているの、苦しんでいる人のためにいつも祈っているし、教会の素晴らしいことについて常に勉強し、相手の要望に直ぐ行動できるようにしている。
- 上司から週末は何をしているかと聞かれ、教会に行ってることを伝えたら、上司は信仰と仕事は対立するものではないといい、またいつあなたは聖人になるのかなど言われ、上司もキリスト教に興味を持ち始めたと感じた。

- 年齢を重ねてくると、宗教・仏教・カトリックに限らず信仰に興味がある方が増えて来ている。その人達のための話の出来る場を作ったらどうか。
- 職場では同僚と友達になることが大切でまず自分の心を開く。恥ずかしがらず、勇気を持って自分の経験やしてきたことをシェアして、自分のことを知ってもらうことが、相手も心を開いてくれるし信頼関係が築かれる。
 - ・噂話には交わらない。
 - ・同僚に微笑みかける。
 - ・仲間外れになりかけている人に話しかける。
- 借り物などのお礼をする品物の中に修道院関係の物を入れることによって祈りがあることを伝える。
 - ・病気で悩んでいる女性に新約聖書をプレゼントし教会に行っていることを伝えた。その後その女性も教会の入門講座に通い洗礼を受けられた。
- 四旬節のお菓子を作ってお茶会をしたら、皆さん宗教の話にも興味を持った。

※C 見知らぬ人に伝えるために

- 神父様が命懸けで貧しい日本に宣教に来て、これまでの苦勞された話しを多くの人に聞いてもらいたい。
 - ・ミサの時、隣に座った方に一番声をかけやすい。
 - ・集団の中で一人でいる方に難しく考えないで話しかけることを意識している。
- 諸宗教間の対話を促進するための世界宗教者平和会議では、信仰を伝える相手を対象としてみないこと、つまりモノとしてではなく友となるようにとの言葉がある。
- 日本では自殺者が多い。例えばどこの駅が多いか、その日、時間帯などをJRに伺ってその場所に行ってロザリオで祈る。

(英語グループ)

- 若者に広く伝える手段としてソーシャルメディアの利用。
 - ・英語センターでは英語の教会報やホームページで興味のある記事を掲載するなどして若者に伝えている。
 - ・ナショナル・カトリック・アウェアネス・コンフェレンスが世界で開かれている。日本でもこのコンフェレンスを開こうと企画している活動グループがある。
 - ・死にたいとイングリッシュセンターに来た人は2時間シスターと話したが、その時シスターはただしっかりとその人の話を聴き、最後に「あなたは沢山のお恵みを受けている。ご両親の愛を沢山受けている」と伝えた。この人はシスターの態度と言葉に深く感銘を受けて帰って行った。
 - ・聴くことは大きな宣教になる。
 - ・出会いについて、少しこっけいな話ですが、スーパーでアフリカ人とイタリア人が、塩と砂糖の区別がつかず話し始めたことがきっかけになり家族付き合いが始まった。この付き合いは14年間続いている。イタリア人はカトリックで子供に洗礼を受けさせたかったが日本人の妻は反対した。やがて二人は離婚。彼女はオーストラリアに移住し、現地で今はバイブルクラスに通っている。いまでもアフリカ人は友人となったイタリア人の家族のためにお祈りをしている。
- 典礼奉仕者として、葬儀に携わっていて感じることは葬儀に参列している人たち

はいろいろのを感じられているので、マンネリにならないようにしている。ミサや葬儀でお会いした人には、必ず挨拶をするように心がけている。

○教会へ知らない方にも来てもらうために、バザーの時、教会のオルガンに触れる会を作り、チラシを近隣に配布したところ、チラシを見て来て良かったと喜んでもらった。

- ・自分の生き方、人生の余裕、よりどころの信仰心を持っていけばおのずと伝わっていく。
- ・今の時代、信仰が必要と本人が思って話しても上から目線になっていると思われてうまくいかないことが多い。
- ・一人の力や自分ががむしゃらに宣教するのではなく、最後は主に依り頼む姿勢が大事である。

【3】まとめ（英 隆一朗神父）

- ・うまくいくかわからないができれば工夫集みたいなものを作りたい。
- ・皆さんの苦しい体験を集めてプリントにしたらどうか。カレンダーにして家族で見るとどうですか。
- ・工夫集を見て、こういうやり方もあるのかと福音を伝えるための参考にもなると思う。
- ・リーフレットを見知らぬ人に配る勇気のいる行動とかは、もちろん出来ることと出来ないこともあります。いろいろな可能性を集めたら良いと思います。
- ・神の恵みなしには出来ないけれど人間の工夫も大事です。
- ・神様の働きに私たちが積極的に協力していく姿勢が必要です。
- ・神様が直ぐに答えてくださることもあれば、家族の宣教に40年、50年が当たり前といえオーバーかもしれないが、粘り強くすべきであるとの意見には励まされ勇気づけられました。
- ・この教会に来て5年目になりますが、祈り続けていることの一つは当然この教会から修道者、神父の召命が出ることです。もちろんこれまで何人もの人に声をかけてきたましたが、5年目にしてやっとその気配が出て来たぐらいです。祈り続けることとアクションも必要だと思います。
- ・あと2、3回ワークショップがあるのでもっと体験とかを広げて一人ひとりが励まされていくと良いと思います。

※次回の第4回福音ワークショップは12月30日(日)の13時からヨセフホールで開催します。

以上

文責：英神父とミッション2030促進チーム